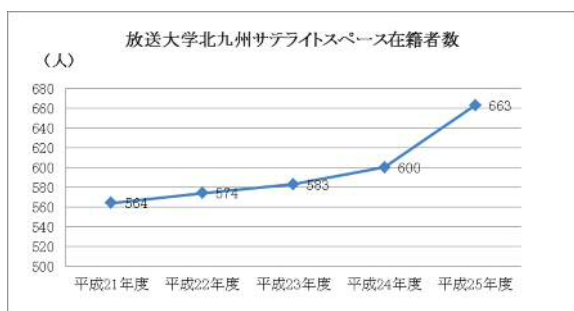
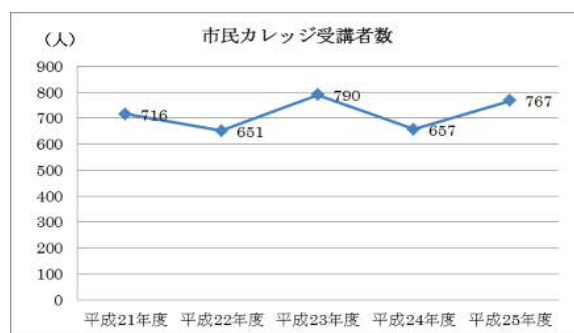
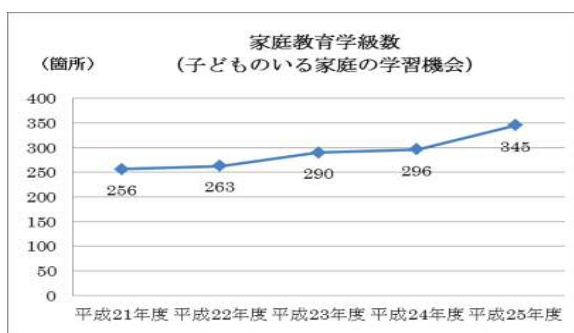
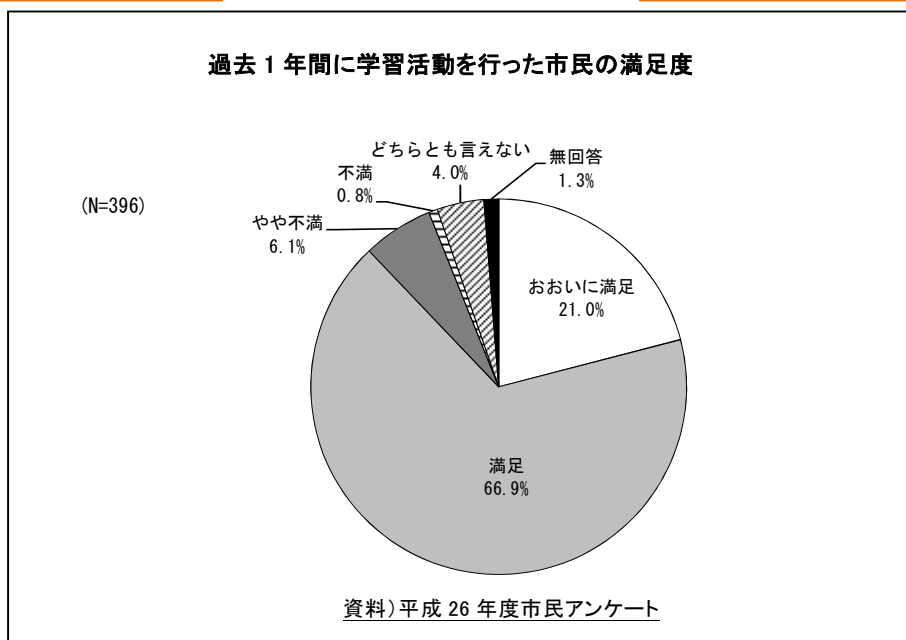


【施策2】 市民一人ひとりに対する多様な学習機会の充実

これまでの成果

- 市民の生涯にわたる学びを支えるには、乳幼児期から少年期、成人期、高齢期といったそれぞれのライフステージに応じた学習課題を学べるよう、その機会を提供していくことが大切です。
- また、学んだ成果が個人的な教養に留まらず、社会に還元されるように学習内容を充実していくことが求められています。
- そのため、生涯学習総合センターが実施する「市民カレッジ」では、専門的かつ高度な学習機会を提供し、生涯学習社会を担う人材の育成に取り組んできました。
- また、市民センターが実施する「生涯学習市民講座」や「地域デビュー支援事業」等は、市民センターごとに地域の特色を活かしながら、地域の学習ニーズに応える講座内容になるよう工夫をしています。  
 その他、青少年の体験活動、家庭教育学級、キャリア教育、人権教育などの充実に努め、市民の生涯学習活動の満足度は高まっています。





### 市民意識

- 市民に多様な学習機会を提供するため、各種の生涯学習関連施設において、様々な講座等が実施されていますが、中でも、市民の日常生活に最も身近な活動場所として、市民センターでの事業の充実への期待が高くなっています。
- 学習内容については、平成21年度に比較的高かった「趣味的なもの（音楽・手芸等）」、「仕事上必要な知識・技能」が低下し、26年度では「健康・スポーツ・レクリエーション」と「社会福祉・ボランティア活動」が増加しています。また、選択する学習内容は、年代で異なり、50歳代以上で「健康」、「社会福祉」、「社会問題」への興味が高くなっています。
- 学習活動の理由としては、平成21年度に引き続き「趣味を深める」、「教養を高める」が最も多く、「趣味を深める」は低下傾向にあり、「健康・体力づくり」、「地域をよくする」、「将来の人生設計」が増加しています。
- 学習方法については、公的機関や地域での活動を活用するケースが多い傾向がありますが、「インターネットの活用」も増加しています。

○学習の場所は、「市民センター」が最も多く活用され、その他の公共施設では「スポーツ施設」、「生涯学習（総合）センター」、「図書館」、「小中学校施設」などが利用されています。また、「自宅」での学習や「民間のカルチャーセンター」や「スポーツクラブ」においても活動が行われています。

○行政が趣味・文化的な講座を主催することについては、一般市民では「行政と民間の間で整理すべき」との意見を持つ人が38%で最も多いのですが、市民センターと生涯学習センターの利用者では「今まで通りで良い」、「今まで以上に行政が積極的に行うべき」との意見が多い状況です。

○人権意識を高めるための学習機会については「今までどおりでよい」が最も多く、次いで「市民センターなどで人権講座、学習の回数をもっと増やすことが必要」との意見がありますが、「市民センターなどで人権講座、学習の機会が提供されていることを知らなかった」方もいます。

◆ 学習活動の内容	(単位：%)	
区 分	21 年度	26 年度
健康・スポーツ・レクリエーション	35.4	47.3
教養的なもの(文学・歴史等)	34.2	36.3
趣味的なもの(音楽・手芸等)	44.3	35.2
社会福祉・ボランティア活動	17.7	27.5
社会問題(時事、政治等)	22.8	18.7
工作上必要な知識・技能	31.6	17.6
家庭生活に関するもの	10.1	9.9
育児、しつけや家庭教育	11.4	9.9
外国語の習得	7.6	6.6

資料) 平成 21、26 年度市政モニターアンケート

◆ 年代別の学習活動の内容	(単位：%)		
区 分	1 位	2 位	3 位
20 歳代	教養	職業上	趣味
30 歳代	趣味	健康	教養
40 歳代	趣味	教養	健康
50 歳代	健康	社会福祉	趣味
60 歳代	健康	社会福祉、教養	
70 歳代	健康	社会問題	社会福祉

資料) 平成 26 年度市政モニターアンケート

### 第3章 生涯学習の現状と課題

◆学習活動の理由		(単位：%)	
区分	21年度	26年度	
趣味を深める	51.9	42.9	
教養を高める	48.1	42.9	
健康・体力づくり	21.5	39.6	
親睦や友人を得る	36.7	24.2	
自由時間の有効活用	20.3	24.2	
仕事や就職等に役立てる	34.2	20.9	
地域をよくする	13.9	20.9	
将来の人生設計	13.9	20.9	
家庭生活に役立てる	15.2	9.9	
その他	6.3	3.3	

資料) 平成 21、26 年度市政モニターアンケート

◆年代別学習活動の理由				(単位：%)		
区分	1位	2位	3位			
20歳代	趣味、教養、仕事					
30歳代	趣味	教養	健康			
40歳代	趣味、教養、仕事					
50歳代	教養	健康	趣味			
60歳代	教養、健康		親睦			
70歳代	健康	親睦	趣味、地域			

資料) 平成 26 年度市政モニターアンケート

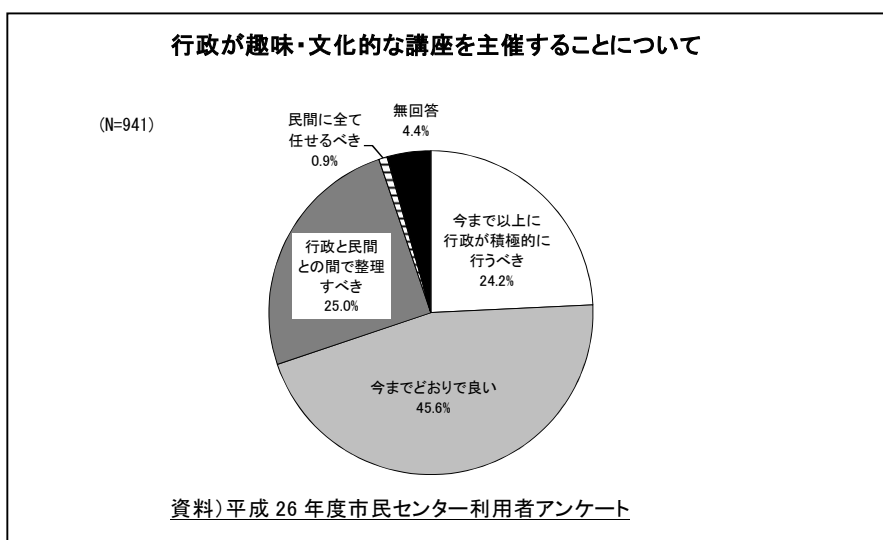
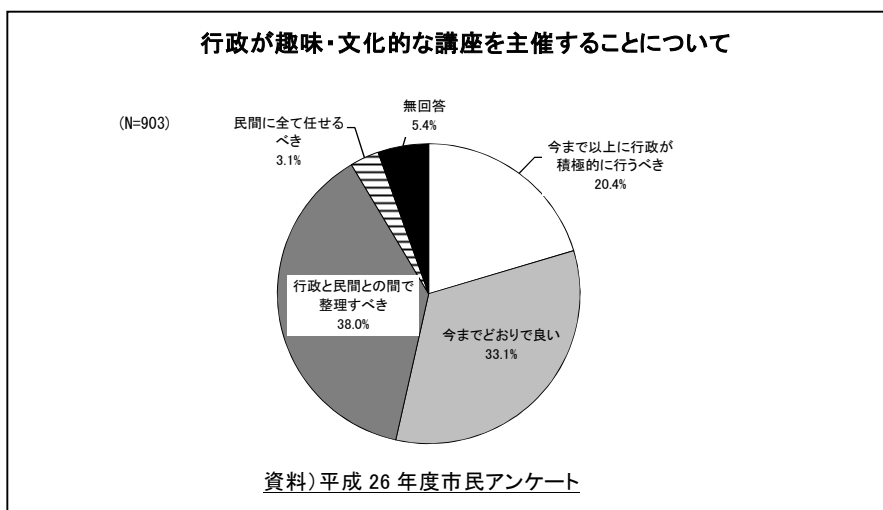
◆学習活動の方法		(単位：%)			
順位	21年度		26年度		
1	公的機関が開設する 講座教室	58.2%	公的機関が開設する 講座教室	58.2%	
2	同じ趣味のサークル・地域グループ活動	30.4%	同じ趣味のサークル・地域グループ活動	30.8%	
3	本、テレビ、ラジオなどの活用	24.1%	本、テレビ、ラジオなどの活用	19.8%	
4	民間のカルチャーセンター	16.5%	PTA、子ども会、婦人会等の講演、研修	16.5%	
5	PTA、子ども会、婦人会等の講演、研修	16.5%	インターネット	16.5%	

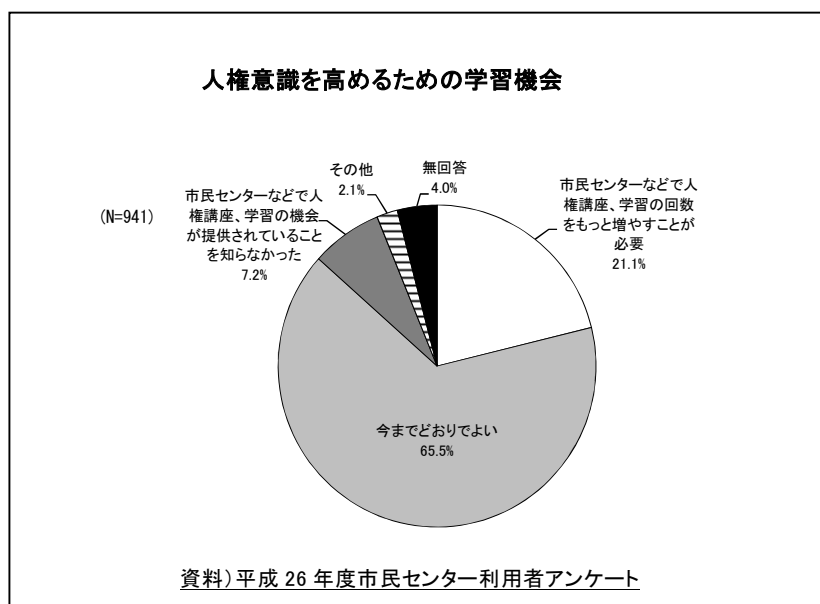
資料) 平成 21、26 年度市政モニターアンケート

### 第3章 生涯学習の現状と課題

◆ 学習活動の場所			(単位:%)	
順位	市政モニター		一般市民	
1	市民センター	51.9%	市民センター	36.1%
2	自宅	48.1%	自宅	31.1%
3	公共のスポーツ施設	24.1%	民間のカルチャーセンター・スポーツクラブ	18.7%
4	生涯学習(総合)センター	16.5%	公共のスポーツ施設	16.9%
5	図書館	16.5%	図書館	12.6%
6	小・中学校の施設	13.2%	生涯学習(総合)センター	10.1%

資料) 平成 21、26 年度市政モニターアンケート





《 今後の課題 》

- 市民の学習活動の内容については、依然として「健康・スポーツ・レクリエーション」や「教養的なもの（文学・歴史等）」、「趣味的なもの（音楽・手芸等）」の割合が高く、現代的課題に関するものへの関心はあまり高くない状況です。今後、個人のニーズと社会的要請のバランスを確保しながら、現代的課題への対応の必要性、重要性を学習者が共有できるように、講座等のあり方を見直すとともに、情報発信やPRなどに工夫を凝らす必要があります。また、趣味的な講座等の修了生や講座をきっかけに形成されたグループが学んだ成果を地域で活かすための方策や支援が必要です。
- 講座等の見直しにあたっては、民間教育事業者等との連携と役割分担を進め、多様な主体のネットワークに基づいて学習機会を提供することが必要です。
- 地域における課題がより一層複雑化、多様化する中、地域が自ら課題解決に向けた講座を企画することを支援する必要があります。
- 市民センターが担う「生涯学習市民講座」等については、地域活動の拠点として、地域の人材発掘・育成につながるものを主に実施していく必要があります。